

2022年8月21日(日)

日本キリスト教団 ^{きゅうほうきょうかい}久宝教会
第65巻第19号(通算3301号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

^{かみさま}神様がすべての人^{ひと}と共^{とも}におられる
ことを証^{あかし}ししていく教会^{きょうかい}

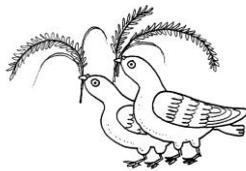


ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切に神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ 5:5)



せいれいこうりんせつ
聖霊降臨節
だい しゅじつれいはい
第12主日礼拝

《^{れいはい}礼拝はインターネットで中継配信^{ちゅうけいはいしん}いたします。ホームページにてどなたでも
^{しちやう}ご視聴いただけますので、それぞれの場所^{ばしょ}で共に礼拝^{れいはい}をしていただけます》

ぜん そう もくとう 前奏(黙禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しへん へん せつ 招きの詞 詩編 71編 5-6節

さんびか ばん とびら ひら ちよさくけんしやうめつ 賛美歌 21-3番「扉を開きて」(©著作権消滅)

せいしよ しょ しょう せつ 聖書 エレミヤ書 1章 4-10節

いの お祈り

さんびか ばん つく しゆ きやうだんしゆつばんきよく 賛美歌 21-548番「わたしたちを造られた主よ」(©教団出版局)

メッセージ 「あなたが触れてくれたから」 岡嶋 千宙 伝道師

さんびか ばん あたら とし きやうだんさんびかかいていいんかい 賛美歌 21-480番「新しい時をめざし」(©JASRAC)

しゆいの ばん てん わたし ちち きやうだんさんびかかいていいんかい 主の祈り 21-62番「天にいます 私たちの父」(©教団讚美歌改訂委員会)

ささげもの 献げ物 (*)

はけん ばん かみ めぐ う せつ 派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゆくふく おかじま ちひろ でんどうし 祝福 岡嶋 千宙 伝道師

こうそう ばん ちよさくけんしやうめつ 後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

ほうこく ページ さんしやう 報 告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ ようい かた ささ 受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 詩編 71 編 5-6 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

5 わが主よ、あなたこそわが希望。

主よ、私は若い時からあなたに信頼し

6 母の胎たいにいるときから

あなたに支えられてきました。

あなたが母の胎から

私を取り上げてくださいました。

私は絶えずあなたを賛美します。



聖書 エレミヤ書 1 章 4-10 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

4 主の言葉が私に臨のぞんだ。

5 「私はあなたを胎内たいたいに形づくる前から知っていた。

母の胎たいより生まれ出る前にあなたを聖別していた。

諸国民の預言者としたのだ。」

6 そこで私は言った。

「ああ、わが主なる神よ

私はまだ若く

どう語ればよいのか分かりません。」

7 しかし、主は言われた。

「『まだ若い』と言ってはならない。

むしろ、私があなたを遣わす相手つかが誰であろうと

赴おもむいて、命じることをすべて語れ。

8 彼らを恐れてはならない。

この私があなたと共にいて、救い出すからだ」

——主の仰おほせ。

9 御手みてを伸ばし、私の口に触れ

主は言われた。

「さあ、私はあなたの口に私の言葉さずを授けた。

10 見よ、今日、私はあなたを

諸国民、諸王国の上に任命する。

引き抜き、壊し、滅ぼし、破壊し

あるいは建て、植えるために。」



《先週のメッセージより》2022年8月14日メッセージ

「互いに平和をもたらし合う」より

牛田匡牧師

聖書 マルコによる福音書 9章42-50節

「塩」は現代でも、人間が生きていくのに不可欠のものです。しかし、冷蔵庫もなかった昔は、食料を保存するために塩漬けにする必要があり、塩の必要性はとても高かったと思います。ヘブライ語における食卓での「塩の分かち合い」は、日本語の「同じ釜の飯を食う」という言葉と同じく、親しい仲間を表す表現でもありました。腐敗を防ぐため、また互いに必要不可欠なものを与え合い、補い合うことによって、互いに平和をもたらし合うことができるのだ、というイエス様の言葉は理解しやすいことではないかと思えます。

しかし、難しいのが、「人は皆、火で塩気を付けられねばならない」(49節)です。ここで述べられている「塩気(塩味)」とは何か。釜ヶ崎の本田哲郎神父は、この言葉を「人は皆、火によって塩味(低みから発想する感性)を取り戻す」と訳しています。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ではありませんが、低みから発想する感性、小さい子どもの感性、病気を患っていたりする時の感性、感覚などを、私たちはいつの間にか忘れてしまい、見失ってしまうことがあります。しかし、そんな私たちがお互いに平和をもたらし合う者となるためには、そのような感性、塩気を自分の内に取り戻しておく必要があります。そしてそれは時に自分の意にそぐわない、「火」によってなされるのでしょう。自ら好んで火の中に飛び込んでいく人はいませんが、しかし、否が応でも火の中に巻き込まれていくということが、誰にでもあるのではないかと思えます。

このお盆の時期にはご先祖様たちに思いを馳せることが多いかと思えますが、先に天に召された方々の人生もまた、必ずしも順風満帆なものではなかったでしょうし、今を生きている私たちもまた山あり谷あり、それぞれに火の中を歩む時もあるのではないかと思えます。しかし、そのような折々に、私たちはそれぞれ、自分の内にも確かにある塩味、低みから発想していく感性に立ち返っていくことが出来るのではないのでしょうか。

神の国はどこから来るか。平和はどこから実現するか。それは低みの中、火の中におられる神様に従うこと、そこにおられる神様が共に働かれることによって、私たちはお互いに平和をもたらし合う者へと変えられ、用いられていくのだと思えます。明日は8月15日、かつての大戦に日本が敗れた日です。戦争の愚かさや平和について思いを馳せる季節として、私たちは日々神様から与えられている命を大切に、歩んでいきます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



◎ 先週の報告 8月14日

主日礼拝出席 大人3名 こども1名 中継動画再生数 10回
 献金 大人3,000円 こども1,000円 感謝



◎次週 2022年8月28日(日) 聖霊降臨節第13主日礼拝

招きの詞 ミカ書 6章 8節
 聖書 マルコによる福音書 10章 46-52節
 メッセージ「あなたは何をしてほしいのか」牛田匡牧師
 賛美歌 21-522番(©JASRAC)、21-413番(©JASRAC)、「地には平和」(©JASRAC)
 礼拝はインターネットで中継配信いたします。

◎お知らせ

- ・本日、礼拝後に「聖書を読む会」をいたします。『創世記』の37章を読む予定です。テキストはコピーを配布いたします。どうぞご参加ください。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染爆発「第7波」が続いています。ご自身の感染予防のためにも、他人に感染させないためにも、教会堂に集まる形での礼拝にこだわらず、インターネットの中継配信を利用したご在宅での礼拝など、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。
- ・9月3日(土)16時から翌4日(日)12時にかけて、京都市左京区にある日本クリスチャンアカデミー・関西セミナーハウスにて、開発教育セミナー「『難民』から世界の今を考える～一人ひとりの物語からはじめよう～」が開催されます。講師は、オックスフォード大学国際開発学部難民研究センター准教授・小俣直彦氏で、同氏の帰国に合わせて、会場での対面式で開催される予定です。

参加費は、11,000円(1泊夕食込み)と京都市宿泊税200円です(別途、2日目の昼食も申し込み可)。

申し込みの締め切りは8月28日(日)で、申し込みは電話 075-711-2117 か、日本クリスチャン・アカデミー・関西セミナーハウスのwebサイト(以下)

<https://www.academy-kansai.org/index.php>

もしくは下記のQRコード等から、お申し込みください。



◎ 次週以降の行事予定

| | メッセージ | 行事 |
|------|-------|--|
| 8/28 | 牛田牧師 | 誕生者祝福式・おにぎり支援 |
| 9/4 | 水谷牧師 | ユーカリスト・教会を考える会? |
| 9/11 | 牛田牧師 | |
| 9/18 | 岡嶋伝道師 | 敬老の日礼拝・聖書を読む会? (14時から、河内地区壮年会@小阪教会) |

2022年度 開発教育セミナー第3回 関西セミナーハウス活動センター 開発教育研究会

人権・平和・環境などの地球的課題がテーマの参加型学習。特に日本と世界のつながりを「持続可能な開発」をキーワードに考える。

「難民」から世界の今を考える
 ～一人ひとりの物語からはじめよう～



ロシアによるウクライナ侵攻で多くの難民・避難民が生まれ、積極的な支援が始まりました。UNHCRの統計によれば、これまでに紛争や迫害により故郷を追われた人の数は世界では8240万人にのぼります(2020)。その多くは近隣の開発途上国が受け入れ、長い難民キャンプでの生活を余儀なくされています。リベリア難民の生の声を通して、日々のくらしや支援の実情と、日本での難民の受け入れや自立支援の違いを知って、私たちにできることを考えましょう。

講師: 小俣 直彦 さん(オックスフォード大学国際開発学部)

日時: 2022年 9月3日(土)16:00~4日(日)12:00

場所: 関西セミナーハウス (東部に地図)

本セミナーは小俣さんの帰国に合わせて対面で開催する予定です。

参加費: 11,000円(1泊夕食込み)+200円(京都市宿泊税)

- *今回は、1室1名を基本とします。差額はありません。(ご家族は別室可能)
- *2日目昼食ご希望の方は申込時にご予約ください。(1,200円)
- *Webサイト(申込フォーム)、Fax(裏面書式)、電話、メール等でお申込みください。
- *申込締切: 8月28日(日)、または定員20名に達し次第。(前日以降は、お問い合わせください)
- *部分参加については事務局にお問合せ下さい。*前日正午以降の振り直し、ご変更は、キャンセル料がかかります。

ただし、ウクライナ情勢などに伴う様々な事情により万が一、予定日までに日本への移動ができなくなった場合、オンラインによる開催の可能性のあることを、お含みください。その場合は、当センターウェブサイトなどでお知らせいたします。お申込の方には、個別にご案内します。

小俣 直彦 おまた なおひこ

1970年生まれ。邦銀勤務を経て、2004年アメリカ、タフズ大学大学院修了。国連機関やNGOで実務家としてアフリカの開発・難民支援の現場に携わった後、研究者の道へ。2012年ロンドン大学博士課程修了。同年からオックスフォード大学国際開発学部難民研究センター勤務。現在は同大学准教授。主に東アフリカで難民の経済生活の調査にあたる。日本語での著書『アフリカの難民キャンプで暮らすサブジュブラムでのフィールドワーク401日』こぶな書店。

(後援)京都市教育委員会、京都府教育委員会、認定NPO法人開発教育協会(DEAR)